

## 「からだ」はご先祖様から戴いたもの！！

人が母親の胎内にやどってからこの世界へ出るまでには10ヶ月以上かかります。その期間、1個の細胞から無数の分裂が繰り返され、人体が形成されていくわけですが、それには、とても興味深い方法がとられているといえます。まず芋のような形の大雑把なものができる。たとえば手の場合、こぶしのようなものができ、次にそこから不要な細胞が剥落して指になるのだそうです。このように、人体はまず大体の形が作られて、次第に細かく仕上げられていくのです。



それはちょうど仏像を彫るのと同じ過程だとは思いませんか。仏師は、木から仏を作り出すのではなく、その木の中に本来からある仏を彫り出すのだといえます。

それにならって言えば、私たちの「からだ」とは、本来的に存在する生命（いのち）が、母親の胎内のなかで形となって、余分なものを取り除いて彫りだされたもの、と言えないでしょうか。

つまり、私たちのこの「からだ」とは、新たに作り出されたものではなく、戴いたものなのです。